

研究科 /Graduate School	文学研究科
課程 /Program	博士課程 後期課程
専攻・コース等 /Major, Course	人文学専攻 ヨーロッパ・イスラーム史専修
入試方式 /Admission Method	一般入学試験
試験科目 /Exam Subject	外国語科目（英語）
実施年月日（試験日） /Exam Date	2026年 2月 8日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>《解答例》</p> <p>①(1)このように、アラビア語の先駆けは多くは姿のわかりにくいものであった—それらはおそらくは口伝されていた。このこと自体は、いくつもの他のアラビア半島の言語がグラフィティ（落書き）やより精緻な碑文、あるいはパピルスで広く伝播していたことを考えると興味深いことではある。「古アラビア語」碑文の欠如やアラビア語の記法の発展のほぼ完全な不在は、それ自体が前イスラーム期にその使用を促進する筆記者の母体が欠けていたこと、そしておそらくはプレステージも欠けていたことを示唆するものである。</p> <p>①(2)地理的観点から言うと、アラビア語のアルファベットの発展の最初の徴候はヒジャーズ地方から出土した共通紀元 4 世紀頃の碑文であるが、しかしそれは古拙なものであった—古典アラビア語と親和性を持つ文法や記法を持った最初期の碑文は 5 世紀からのものであり、それらは現在のシリア、ヨルダン、そしてシナイ半島地域に集中している。「古アラビア語」と認められているすべての碑文はシリア／パレスティナか、近接するアラビア半島北西部（ヒジャーズ地方）のものであり、このことからアラビア語はイスラームの出現する直前でさえ、前イスラーム期のアラビア全体で使用されていたのではないように思われる。</p> <p>①(3)自らのアイデンティティを「アラブ」と表現する人々の不在は、アラビア語碑文の乏しさともあいまって、前イスラーム期における広範囲なアラブ人集団形成という考え方に対する証拠となるものであり、そしてそれ以上に、前イスラーム期のそれぞれの碑文が「アラビア語で」書かれているということに対しても見直しを迫るものである。</p> <p>②前イスラーム期のアラビア半島ではさまざまな言語が使用されており、前イスラーム期の碑文も多くは「古アラビア語」で書かれているわけではない。むしろ前イスラーム期において「古アラビア語」は使用者も多くなく、記法などもはっきりせず、高い地位を持った言語ではなかった。前イスラーム期の碑文は数多く見つかっているが、それらは他の言語で書かれているものが大半である。これらはアラビア半島の人々のなかで書くことがかなり広範に広がっていたことを示すものであるが、一方で「古アラビア語」で書くことは一般的ではなかったことをも示す。「古アラビア語」碑文の大半は 6 世紀以降のもので地理的にも限定されており、ここからアラビア語がイスラームの出現直前においてもアラビア半島で広く使用される言語ではなかったことが示唆される。また前イスラーム期における「アラブ人」アイデンティティの存在や、「アラビア語」概念の存在についても疑問符がつく。したがって、前イスラーム期の言語から古典アラビア語への直線的な進化や、言語の展開と共同体のアイデンティティの発展とを関連づけることも再考すべきである。</p> <p>《出題意図》 例年、ヨーロッパ史あるいはイスラーム史に関する基本的な知識を持っているか、そして研究をおこなうにあたって不可欠な英語の読解力を持っているかを問うている。</p>	

研究科 /Graduate School	文学研究科
課程 /Program	博士課程 後期課程
専攻・コース等 /Major, Course	人文学専攻 ヨーロッパ・イスラーム史専修
入試方式 /Admission Method	一般入学試験
試験科目 /Exam Subject	外国語科目（フランス語）
実施年月日（試験日） /Exam Date	2026年2月8日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>《解答例》</p> <p>ザイド派をその他の預言者一族の信奉者と区別する点は、権力を有するための正当な権利は武力によって守られなければならないと主張していることである。例えば、マンズールがカリフであった時代については、ハサン・イブン・アリーの子孫、ムハンマド・イブン・アブドゥッラーとその弟イブラヒムによるザイド派の反乱を挙げることができる。彼らは武力によって自らの権力を主張した。（…）今日まで存続している最も有名なザイド派のイマーム政権はイエメンのそれであり、サアダとナジュラーンを奪取した後、911年にはイエメンにザイド派を定着させることに成功した。</p> <p>ザイド教の政治思想はスンニ派とシーア派の思想の混合である；イマームは自由意志（イフティヤール）によって指名されるが、その選択は預言者の家系に限定される；アリーとファーティマの子孫の中から、最も優秀で、力によって自身を認めさせる能力を最も有する者を選ばなければならない。このように、ザイド教はシーア派の戦闘的な形態である。</p> <p>《出題意図》</p> <p>受験者が大学院後期課程において必要とされる語学力を有しているかを確認するとともに、ヨーロッパ史・イスラーム史に関する基礎的な概念・用語を理解しているのか判定するため、ヨーロッパ史・イスラーム史に関する基本文献から、上記の能力を判断できると思われる文章を選んで出題した。</p>	